九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

地域在住高齢者の心理的well-beingを目指した臨床心理学的支援に関する研究

久，桃子

https://doi.org/10.15017/1654613

出版情報：九州大学，2015，博士（心理学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	久　桃子
論　文　名	地域在住高齢者の心理的 well-being を目指した臨床心理学的支援に関する研究
論文調査委員	主査　九州大学　職名　准教授　氏名　古賀　聡 副査　九州大学　職名　教授　氏名　遠矢　浩一 副査　九州大学　職名　教授　氏名　田中　真理 副査　九州大学　職名　教授　氏名　大場　信惠

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は老いに伴う心身の機能の低下や喪失を経験しながらも，高齢者が生き生きととよりよく生きるための心理的機能に着目し，その支援について支援事例を通して臨床心理学の立場から検討することを目的としている。第 1 章では、地域在住高齢者の健康支援の現状と課題について先行研究をもとに論じ、第 2 章から第 5 章までは、論文筆者の実践事例をもとに、回想法、心理劇、動作法といった臨床心理学的アプローチを用いた支援について詳細に報告し、第 6 章では以上の実践事例のもとに高齢者の心理的 Well-being の支援のあり方について総合考察を行った。

本論文について口頭による試験を行い、高齢者の健康支援において臨床心理学的視点や方法を用いた意義、回想法、心理劇、動作法の臨床実践上の配慮や工夫、本研究の限界と今後の研究の展開について質疑を行った。その結果、いずれについても十分な回答を得た。さらに、高齢者の健康支援において、心理劇や動作法といった行為表現や動作を含めた総合的な自己活動を支援するアクション・メソッドを取り入れた試みは独創的であると考えられ、臨床心理学における意義深い研究成果を示したと判断された。

よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。